







<GLP-1受容体作動薬>

○：採用 △：限定採用 ×：非採用

※4週間あたりの負担額：通常用量で計算した場合（通常用量に達しない例もあり）

分類	一般名	商品名	採用 現行↓提案	剤型	1製剤 あたり 規格 ・ 日数	薬価 (円)	4週間 あたり (円) 【負担別】	会社名	2型糖尿病		半減期 (hr)	用法・用量	開封 後 期限	空 打 ち	腎 機 能 障 害	肝 機 能 障 害	特徴
									ただし、以下のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る	食事・運動療法に加えて下記を使用							
長時間作用型	遺伝子組換え	リラグルチド 	○ ↓ △	ペン	18mg 20日分	10245	【1割】 1434.3 【3割】 4302.9 ※	ノボ	○	記載なし	15	1日1回（朝 or 夕）に0.9mg 【初回】 0.3mg 【増量】 1wk以上の間隔で 0.3mgずつ 【最高】 0.9mg	30日	毎 回	慎重 投 与	慎重 投 与	・ HbA1c低下効果や空腹時血糖低下作用は優れない ・ 海外用量の半分の用量設定（海外：1.8mg） ・ 効果が持続的 ・ 体重増加を来しにくい ・ 食事に関係なく朝または夕で投与が可能
		デュラグルチド 	× ↓ △	ペン	0.75mg 7日分	3586	【1割】 1434.4 【3割】 4303.2	大日本住友	○	記載なし	108 ↓ 4.5日	週に1回 0.75mg	1回使い切り	—	制限なし	制限なし	・ 海外では1.5mgと0.75mgの2規格あり ・ 同じ週1回のビデュリオンに比べ操作が簡便 ・ 立ち上がり早い ・ 副作用発現は血中濃度に依存するため、数日続く可能性あり（用量調節できないため注意が必要） ・ 2015年9月販売開始、2016年10月より長期OK
	エキセナチド 	×	ペン バイアル	ペン	2mg 7日分	3586	【1割】 1434.4 【3割】 4303.2	アストラゼネカ	○	・ SU剤 ・ BG系 ・ TZD系 (単剤 or 併用)	該当 資料 なし	週に1回 2mg	1回使い切り	—	【重度】 禁忌	慎重 投 与	・ バイエッタの徐放化製剤 ・ 空腹時・食後の血糖改善 ・ ペン内 or シリンジ内に専用懸濁用液あり (要時懸濁が必要) ・ 注射針は付属のものを用いる
短時間作用型	エキセナチド 	バイエッタ 	×	ペン	5μg 28日分 10μg 14日分	9937	【1割】 993.7 【3割】 2981.1 【1割】 1987.4 【3割】 5962.2	アストラゼネカ	○	・ SU剤 (BG系/TZD系との併用含む)	1.4 1.3	【初回】 1日2回（朝・夕食前）に 5μgずつ 【増量】 初回から1ヵ月以上 経過後、患者の状態に応じて 20μg（1回10μg、1日2回）に 増量できる	30日	初 回 の み	【中等度 以下】 慎重投与	慎重 投 与	・ 食後血糖低下作用強い ・ 体重有意に減少 ・ 負担額は用量によって異なる
		リキシセナチド 	△ ↓ ×	ペン	300μg 15日分	7171	【1割】 1338.6 【3割】 4015.8 ※	サノファイ	○	・ SU剤 (BG系との併用含む) ・ 基礎インスリン (SU剤との併用含む)	2.01	1日1回（朝食前）に20μg 【初回】 10μg 【増量】 1wkの間隔で5μgずつ 【最高】 20μg	30日	毎 回	【重度】 慎重投与	制限 なし	・ 悪心嘔吐の副作用と有効性考慮し1日1回の用量となった ・ 食後血糖低下作用強い ・ 基礎インスリンと同じタイミングで投与可能 ・ 経口剤・インスリンとの併用でも体重減少